



つくる、を日常に。



Living with ART.

2023 8.19 (土) — 8.27 (日)

日本画・洋画・書・彫塑工芸・写真

会場

春日井市役所10、11、12階
文化フォーラム春日井

時間

午前9時～午後4時30分
※初日のみ午前10時開場／最終日は正午まで
※会期中休みなし

主催：春日井市、春日井市教育委員会

後援：中日新聞社

主管・問合せ：公益財団法人かすがい市民文化財団

TEL.0568-85-6868 www.kasugai-bunka.jp

春日井市民美術展覧会

市民展

市制80周年記念第72回

目 次

特別賞受賞作品

市長賞	2
市制80周年記念賞	5
財団理事長賞	8
教育委員会賞	11
市議会議長賞	14
観光コンベンション協会会長賞	17
委嘱特別賞	21

受賞者、入賞者・資格者一覧

特別賞	23
奨励賞	25
入選	26
無鑑査	31
委嘱	33
審査会員	34

審査講評	35
------	----

応募点数表・審査結果表	38
-------------	----

入賞者名簿カラー版 インターネット公開のご案内

本入賞者名簿のカラー版をインターネット上で公開します。

あわせてぜひご覧ください。

令和5年8月19日(土)から

※春日井市及び文化財団ホームページ上で公開



春日井市民美術展覧会 公式Instagramのご案内

ご自身の作品やお知り合いの作品を投稿し、

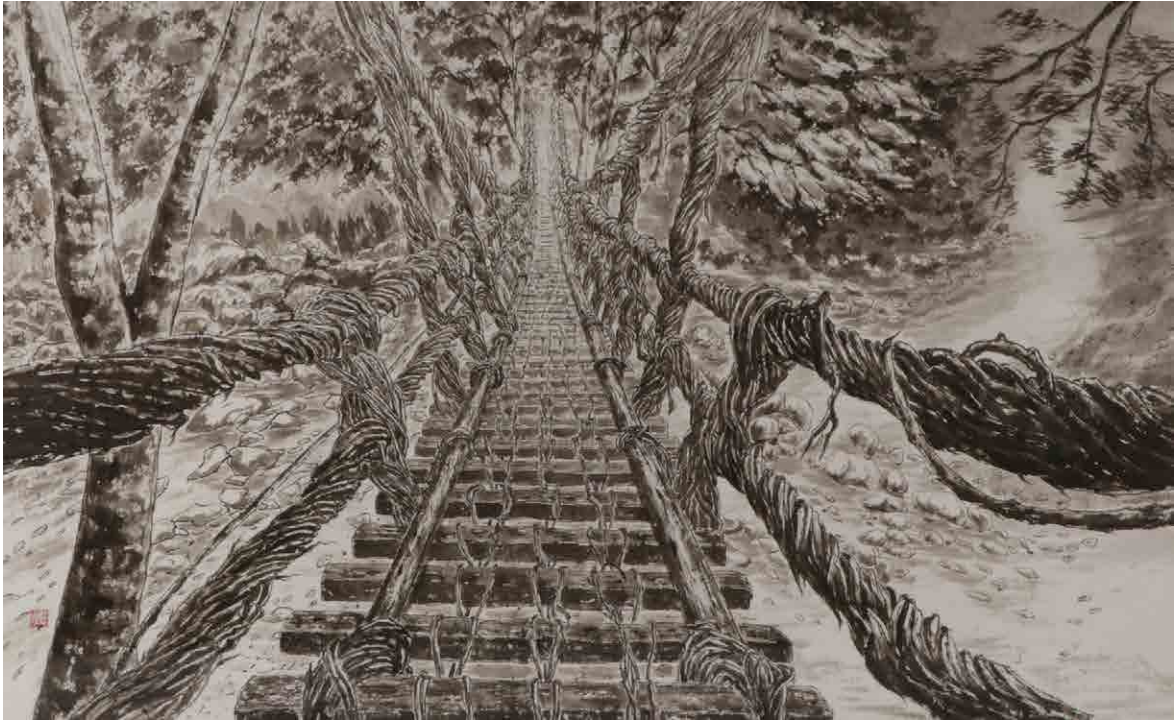
いいね！やコメントを送るなど是非ご活用ください。

フォロー及び「#春日井市民美術展覧会」「#市制80周年」

をつけてのご投稿もお待ちしております。



市長賞



▲ 日本画
「祖谷のかずら橋」
山下 勝一



▲ 洋画
「碎石工場」
鈴木 良昭



▲ 写真
「水のカーテン」
平 田 重 模

市制80周年記念賞

日本画 ▶
「月の朝」
棚 橋 文 代



◀ 洋画
「株杉-悠久の刻を超えて」
森 島 美佐子



◀ 書
「春潮帶雨」
藤田香志



◀ 彫塑工芸
「頬笑み」
奥村 日出夫



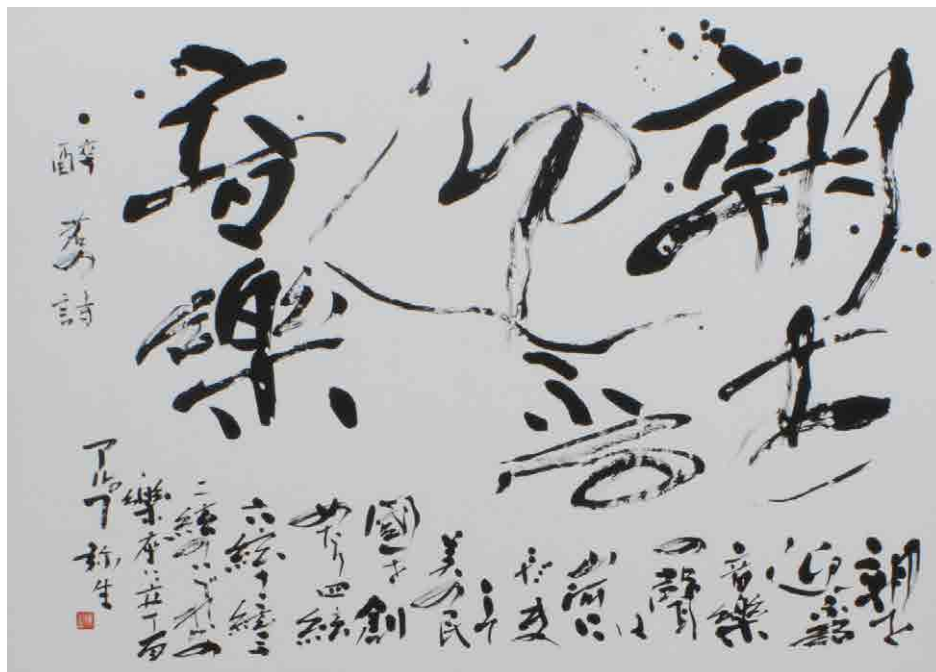
写真 ▶
「無加工どすえ」
岡重桂介



◀ 日本画
「PEACE」
佐伯茂明



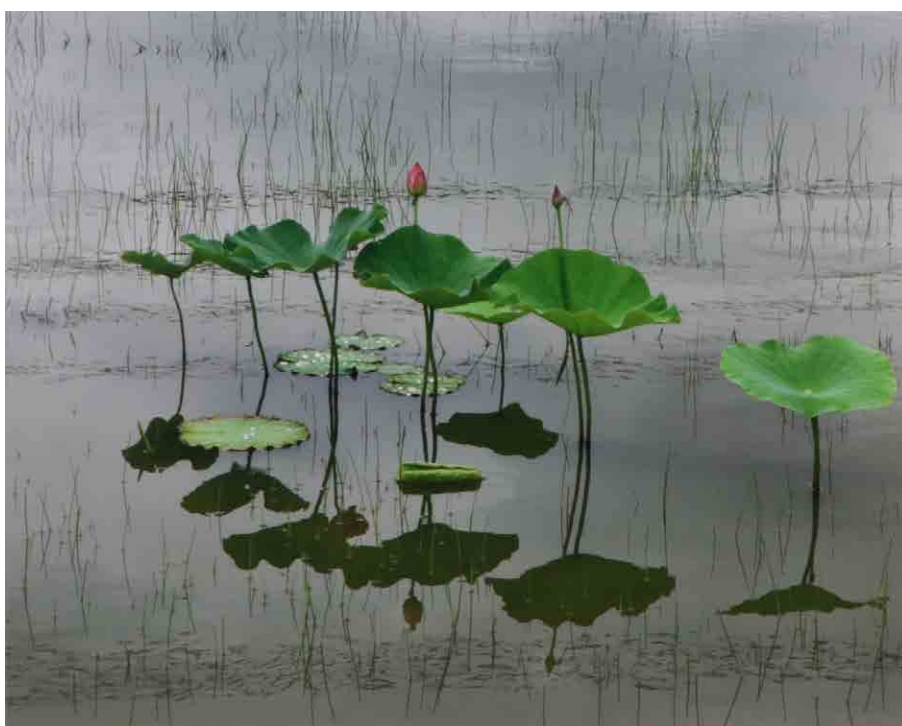
洋画 ▶
「Banjaku」
小笠原 広 行



▲ 書
「畫ける琴(抄)」
古家野 弥 生

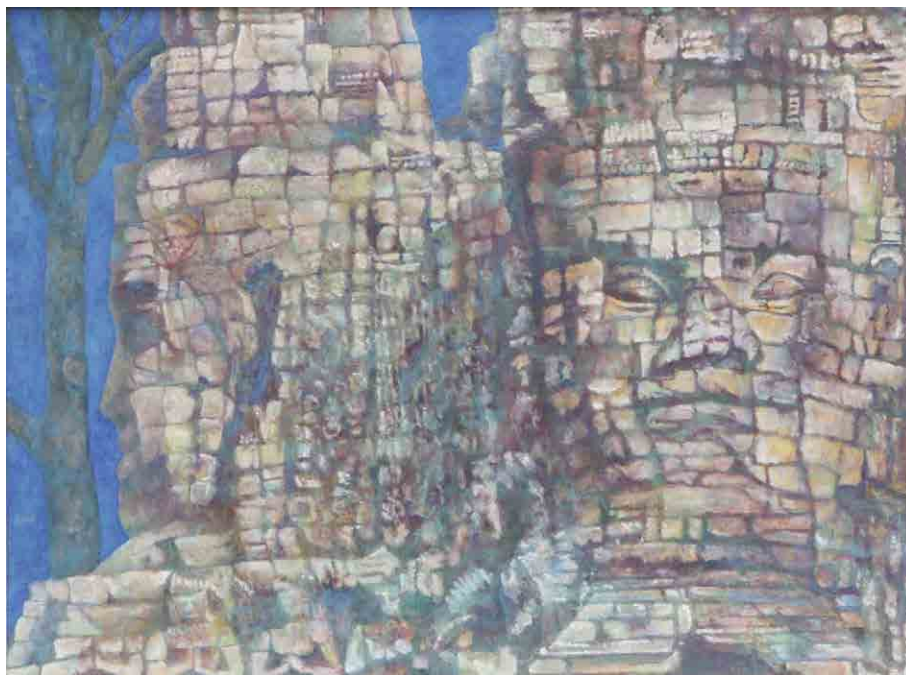


▲ 彫塑工芸
「トロピカル」
野 崎 真千代



▲ 写真
「ラインダンス」
森 本 修

日本画
「アンコール」
橋 本 眞知子



◀ 洋画
「蒼いバトンリレー」
棚 瀬 真 理



◀ 書
「被髮纓冠」
菱 川 武



▲ 書
「辻公園」
九 野 恭 葩



彫塑工芸 ▶
「想」
伊 藤 寧 恵



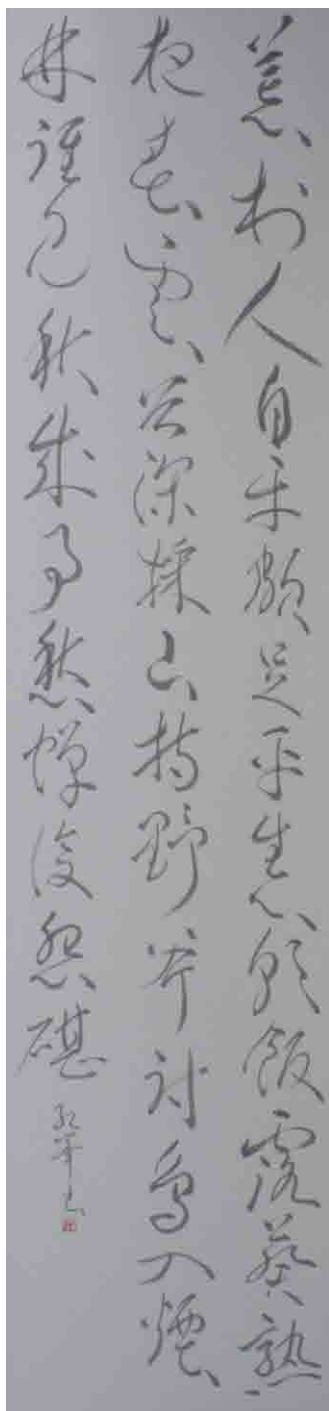
▲ 写真
「おはよう」
神 戸 敏 文

市議会議長賞

日本画 ▶
「秋桜」
武内 喜代子



◀ 洋画
「御嶽山」
右高 伊津子



▲ 書
「田家四時」
神 沢 紅 峯



▲ 書
「建」
橋 倉 詠 雪



◀ 彫塑工芸
「宝海大黒天像」
長瀬 徹



▲ 写真
「暮れゆく渚」
石黒良夫

観光コンベンション協会会長賞



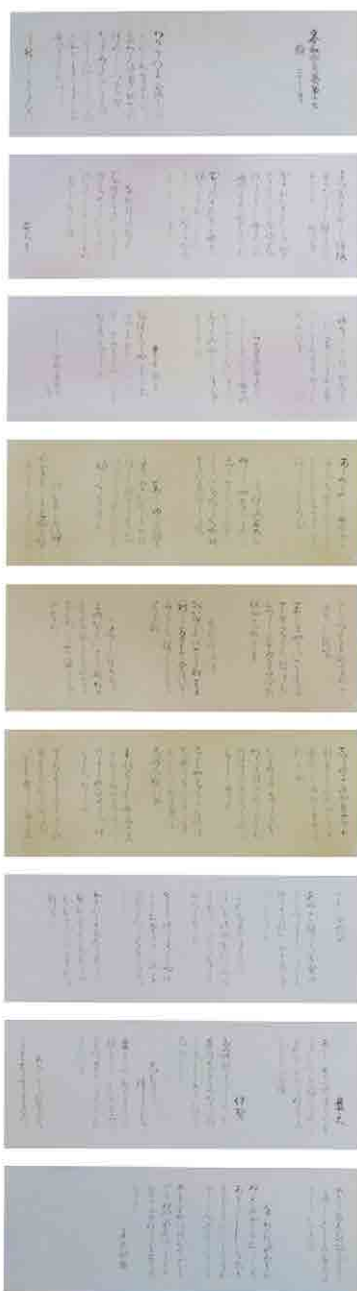
▲ 日本画
「化石は過去の地球からの手紙」
松 本 道 子



▲ 洋画
「秋雨の帰り道」
高 橋 俊 二



◀ 洋画
「立春のころ」
竹 村 みち子



▲ 書
「曼殊院本古今集」
伊 藤 恵 光

蓋聞二儀有象顯覆載以含生四時無形潛寒暑以
化物是以窺天鑒地庸愚皆識其端明陰洞陽賢哲
罕窮其數然而天地苞乎陰陽而易識者以其有象
也陰陽象乎天地而難窮者以其無形也故知象顯
可徵雖愚不惑形潛莫覩在智猶迷
ハナハナ

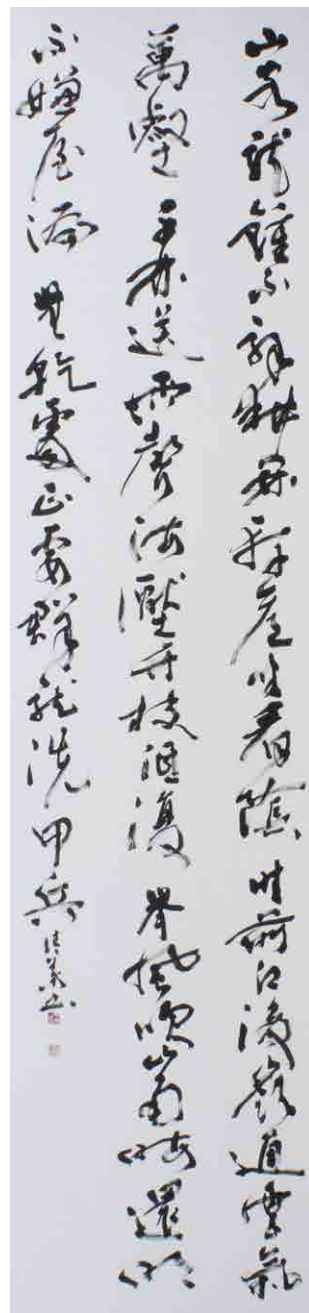
▲ 書
「雁塔聖教序」
伊 藤 八 舟

宣 上 於 大
抒 合 是 人
玄 紫 四 之
汙 臺 方 意
以 稽 土 連
注 之 仁 彊
水 中 聞 之
深 和 君 思
法 下 風 乃
舊 合 耀 共
不 聖 敬 立
煩 制 咏 表
備 事 其 石
而 得 德 紀
不 禮 尊
奢 儀 琦

▲ 書
「礼器碑」
加 藤 佳 茜



▲ 書
「六月のみどりの夜は」
林 泰 伯



▲ 書
「観雨」
鹿 倉 清 葉



彫塑工芸 ▶
「絵唐津茶鉢」
加 藤 雅 巳



◀ 写真
「静寂」
永田 昭夫

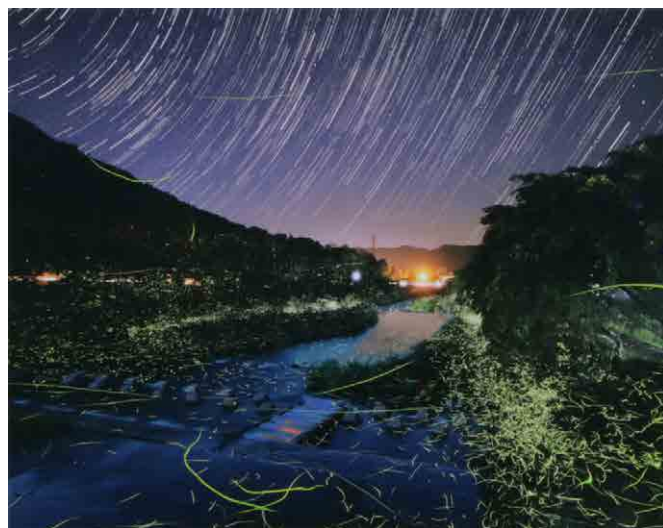


写真 ▶
「魅惑の初夏」
久野 榮次



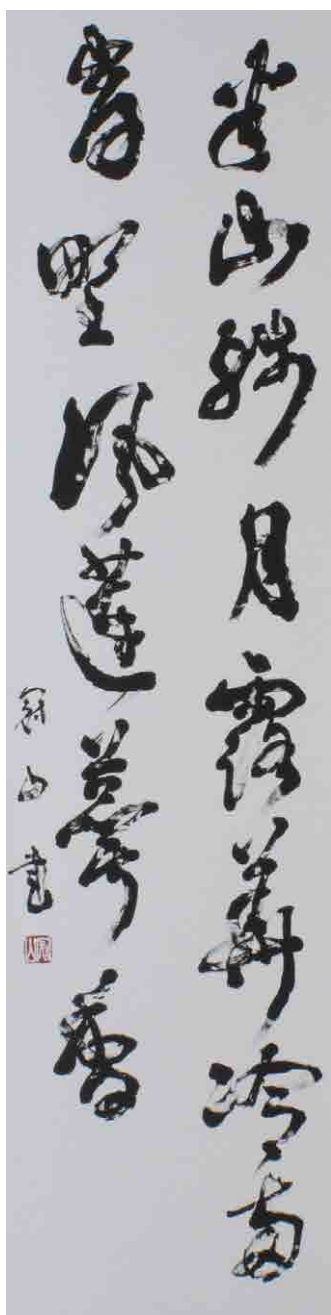
◀ 写真
「写真部のみんなで」
大石 琉奈

委嘱特別賞



▲ 日本画
「秋韻」
鈴木 敦子

◀ 洋画
「囁き」
石黒 郁美



▲ 書
「半山残月」
鶺鴒 冠 山



▲ 彫塑工芸
「懐かしのメロディー」
八 木 宏 美

特 別 賞

(五十音順)

日 本 画

市 長 賞	祖谷のかずら橋	山 下 勝 一
市制80周年記念賞	月の朝	棚 橋 文 代
財 団 理 事 長 賞	PEACE	佐 伯 茂 明
教 育 委 員 会 賞	アンコール	橋 本 眞知子
市 議 会 議 長 賞	秋桜	武 内 喜代子
観光コンベンション協会会長賞	化石は過去の地球からの手紙	松 本 道 子
委 嘱 特 別 賞	秋韻	鈴 木 敦 子

洋 画

市 長 賞	碎石工場	鈴 木 良 昭
市制80周年記念賞	株杉-悠久の刻を超えて	森 島 美佐子
財 団 理 事 長 賞	Banjaku	小笠原 広 行
教 育 委 員 会 賞	蒼いバトンリレー	棚 瀬 真 理
市 議 会 議 長 賞	御嶽山	右 高 伊津子
観光コンベンション協会会長賞	秋雨の帰り道	高 橋 俊 二
観光コンベンション協会会長賞	立春のころ	竹 村 みち子
委 嘱 特 別 賞	囁き	石 黒 郁 美

書

市 長 賞	新しい言葉	横 井 吟 虹
市制80周年記念賞	春潮帯雨	藤 田 香 志
財 団 理 事 長 賞	畫ける琴(抄)	古家野 弥 生
教 育 委 員 会 賞	辻公園	九 野 恭 葩
教 育 委 員 会 賞	被髪纓冠	菱 川 武
市 議 会 議 長 賞	田家四時	神 沢 紅 峯
市 議 会 議 長 賞	建	橋 倉 詠 雪
観光コンベンション協会会長賞	曼殊院本古今集	伊 藤 恵 光
観光コンベンション協会会長賞	雁塔聖教序	伊 藤 八 舟

書

観光コンベンション 協会会長賞	観雨	鹿倉清葉
観光コンベンション 協会会長賞	礼器碑	加藤佳茜
観光コンベンション 協会会長賞	六月のみどりの夜は	林泰伯
委嘱特別賞	半山残月	鵜飼冠山

彫塑工芸

市長賞	シャトル	棚橋繁
市制80周年記念賞	頬笑み	奥村日出夫
財団理事長賞	トロピカル	野崎真千代
教育委員会賞	想	伊藤寧恵
市議会議長賞	宝海大黒天像	長瀬徹
観光コンベンション 協会会長賞	絵唐津茶盃	加藤雅巳
委嘱特別賞	懐かしのメロディー	八木宏美

写真

市長賞	水のカーテン	平田重模
市制80周年記念賞	無加工どすえ	岡重桂介
財団理事長賞	ラインダンス	森本修
教育委員会賞	おはよう	神戸敏文
市議会議長賞	暮れゆく渚	石黒良夫
観光コンベンション 協会会長賞	写真部のみんなで	大石琉奈
観光コンベンション 協会会長賞	魅惑の初夏	久野榮次
観光コンベンション 協会会長賞	静寂	永田昭夫

奨 励 賞

(五十音順)

日 本 画

五十嵐 美 絵 会えたね
猪 又 良 次 寒蘭
山 本 優 貴 命をおって

洋 画

伊 藤 左余子 町の工場で
小 澤 良 子 散紅葉
川 口 瓊 子 サボテンの花
ち わ 華火
中 條 巖 ガジュマルの侵略。
長 縄 紀 子 昔日
野 川 義 雄 二月堂裏参道(奈良市)
長谷川 まり子 北アルプス遠望
深 谷 久美子 次、私！
森 田 由美子 樹勢
渡 辺 朋 子 陽をあびて

書

浅 井 陽 子 春宵一刻直千金
足 立 恵 川 鄭義下碑
板 津 優 花 魏霊蔵造像記
井 藤 雅 香 米芾
伊 藤 雛 子 トラピスト修道院
今 村 禎 邨 蘭秀芝榮
草 川 竹 露 磨穿鐵硯
黒 田 玲 翠 鳥啼流水落花外

小 瀬 由 佳 DESTINY

五 藤 しのぶ 海の夏

酒 井 鳴 石 散氏盤

田 中 薫 園 燕居即事

富 永 飛 燕 敬天愛人

萩 原 由希子 虫の音

藤 田 竹 葉 石鼓文

松 原 瑞 穂 金子光晴の詩

村 田 麗 水 楽其有麋鹿魚鼈

山 中 峰 代 躑躅

彫 塑 工 芸

岩 田 洋 彼岸花

山 田 幸 江 世界平和に祈りをこめて

写 真

石 井 和 廣 荒ぶる冬の山

伊 里 孝 彦 夕日100選(西伊豆・大田子海岸)

大 場 浩 之 私のもの

笠 原 照 雄 夜の電車基地では

木 村 弘 之 炎に挑む

澤 田 昌 俊 日本刀の鍛錬

中 村 庸 男 秋色染まる

長谷川 英 乃 一瞬の微笑み

古 田 恵美子 静寂な刻

前 川 敦 哉 冬の散歩道

雪 嶋 大 幻冬のぬくもり

入

選

(五十音順)

日 本 画

相 内 恵 一	落合公園雪景色	足 立 暁 子	チェコの風景	木 全 文 男	黒カベの家
石 川 恵 亮	双龍	安 藤 友 南	倉敷にて	小 林 和 美	醍醐の桜
伊 藤 千 浪	途	石 井 仲 子	生	坂 本 愛	薔薇のある静物
榎 本 建 三	海に輝く岩の壁	石 川 茜	玄関にあるマーガレット	櫻 田 世 莉	ごめん寝
大 嶋 本 嗣	秋のハーモニー	石 川 公 子	アフリカ	篠 原 令 子	卓上
神 野 容 子	莊子遐思図	伊 藤 明 子	なあに?	柴 田 久 廣	初秋の風
亀 井 伸 司	昭和新山	伊 藤 武 臣	駿府城	島 貫 智 子	鴨の居る池
小 林 光 雄	旅先の思い出	伊 藤 博 之	追憶の駅	下 田 郁 代	温室の部屋
佐 倉 久 子	あれこれ	伊 藤 雅 之	水辺のシンフォニー	末 永 ユリ子	セピア色の集い
島 村 旭	極地絹雲	今 井 瑞 穂	自由	関 口 章	春の寺院
末 松 満里子	ひるげの母子	宇治原 正 子	ピーターラビット	高 澤 満知子	佇む時
杉 山 美千代	しまふくろう	浦 恵 子	雪の兼六園	高 畑 美 優	夢のなか
鈴 木 緑 香	朝靄(群馬県)	大 澤 正 義	里山	瀧 川 陽 子	未来へ
高 木 哲 男	松にオオタカ	大 島 巖	金剛峯寺八大童子立像	田 屋 澄 江	春爛漫
高 嶋 康 子	釣り人	大 脇 宣 夫	山岳風景	塚 原 昭 和	無題
田 口 五津子	想い出の山	緒 方 隆	カサゴ	土 屋 文 秀	生命の行方
波多野 立 子	シャクナゲと五重の塔	岡 本 ちか子	釣り人とアオサギ	遠 山 健	赤富士
繁 昌 正 宏	怒 涛(どとう)	岡 屋 勘	溪流	富 山 仁 美	明治村の駐在所 お巡りさんと一緒
坂 野 うた子	父用明天皇の病氣平癒念ず太子十六歳像	小 川 実 桜	夜景	鳥 頭 吾 郎	納涼祭りへ
福 田 俊 博	水しぶき	小 黒 由美子	サボテンの花	長 野 恭 治	春動
舟 渡 悦 夫	贄川のトチ	尾 澤 芳 子	木立	中 畑 寛 重	春を待つ薬師寺密蔵院
		加 藤 砂 夫	バレリーナ	中 村 正 之	うず
		加 藤 雅 江	いつかこの日を	中 村 みよ子	8人目の孫
		加 藤 麻 穂	Honu	中 山 恒 忠	ボルトの力 II
秋 本 慎ノ介	美ら海	金 子 哲	ひまわり	野 中 清 三	神威岬
浅 野 勝 一	百済寺の紅葉	加 納 裕 美	三保飛行場	林 明 美	しだれ桜と鯉

洋 画

林 博 子	水無月	安 藤 紫 水	秋色来秋思	小 川 蘭 舟	礼器碑
原 口 かち子	やすらぎ	井 口 佳 洋	安川茂雄詩	奥 田 霞 峰	登峰 造極
原 田 進	懐かしい昭和の匂いがする家並	伊 澤 心 優	斎藤茂吉の句	奥 村 翠 月	生田春月の詩
坂 野 うた子	ベトナム 自転車通学の女子学生	石 井 康 貴	鄭義下碑	小 栗 舟 秀	蘭亭序
日 置 貴 子	信頼(コウモリラン)	石 川 真 晔	自詠句	落 合 博 歩	十七帖(三井本)
平 岡 容	五月の女性Kさん	市 川 尚 子	青山	角 谷 楓 花	城 左門の詩
平 野 雅 子	曾孫 仲良し従兄妹	伊 藤 清 翠	いい日旅立ち	粕 谷 愛 莉	蘭亭序
福 岡 博 志	ブラッセル グラン・プラス広場	伊 藤 園 子	風景とオルゴール	加 登 さくら	蘭亭序
藤 原 陽 彩	猫	井 藤 千 鶴	近得書帖	加 藤 敦 美	蘭亭の遊び
堀 敦 子	牡丹	伊 藤 七 夏	送張舎人之江東	加 藤 志 翠	臨 書譜
堀 場 由美子	木もれび受けて	伊 藤 美 文	早春歓喜	加 藤 碩 望	蘇東坡詩
松 田 美智子	狼	伊 藤 立 夏	史頌毀臨	蟹 江 和 江	天馬の道に
馬 淵 眞 一	舞い上がる	稲 垣 舞 香	蘭亭序	神 村 瑤 春	相送
水 谷 寿美子	volks wagen	今 田 春 恵	孟浩然詩	神 山 昌 子	秋
村 上 健	再生	上 田 麗 翠	夕陽	川 瀬 莉 南	蘭亭序
村 瀬 貴久雄	駒ヶ根の春	上 原 美代子	そら晴れて 山家集より三首	神 原 佑 衣	蘭亭序
安 井 明 彦	木材	白 井 照	遠離顛倒夢想	神 戸 千 春	採草 生田春月の詩
安 田 百 花	しとやかに	梅 田 栄 香	冬の曇る日	北 村 栖 軒	蘭亭序
山 本 厚 子	いろはあそび	遠 藤 瑞 希	春の頌…Ⅱ風景	木野瀬 陽 光	犬山音頭
山 本 崇 登	狂栄	大 内 久 子	仁者無敵	櫛 田 游 月	書譜
優 衣	内津川	大 澤 逍 遥	花鳥風月	國 廣 遥	鰻と蛙
吉 見 かほり	真夏の合唱団	太 田 桜 舟	真草千字文	熊 谷 涉	秋の仕度
W a s e i	自画像	大 畑 華 雪	千峰鳥路	栗 木 美紀子	至誠
書		大 室 瑠 菜	蘭亭序	小 出 真 央	春の頌…Ⅱ風景
		岡 知 里	臨樂毅論	古井戸 春 華	上皇西巡南京歌二首
相 原 菅 雪	屏風土代(二)	岡 本 蒼 生	銀河その一	小 島 彩 溪	遠い日

小 林 双 梢	臨礼器碑	坪 井 凜	風信帖	古 川 智 貴	土井晩翠の詩
小 松 永 愛	智証大師諡号勅書	津 山 栖 峰	礼器碑	古 田 輝 美	志摩の村より
近 藤 智 昭	激	寺 尾 青 波	故園の萊	細 川 厚 子	島崎藤村の詩
堺 千重美	七言二句	富 田 鶴 美	遠渚	堀 清 琴	無數山蟬 (徐璣詩)
境 優 芽	憂懸帖	中 内 早 紀	春夏秋冬	本 多 し ま る	曹全碑
境 田 真 美	蘭亭序	永 草 紅 風	悲哉秋	前 川 瑞 峻	眞畫 草野天平の詩
酒 徳 拓 和	木簡	中敷領 立 庭	十七帖	前 田 笙 風	經汾陽舊宅
坂 元 愛 海	真行草雜書冊	永 田 正 毅	自求多福	正 代 加 菜	川田順の句
作 田 紫 泉	夏	中 谷 翠 月	朱彝尊詩	間 瀬 慶 風	風信帖
柴 田 喜代市	蘭亭叙句	長 縄 朋 演	司馬解墓誌銘	松 田 和 奏	蘇孝慈墓誌銘
清 水 美 水	鄭義下碑	野 口 花 風	蘇軾詩	松 野 悦 子	有禮者敬人
鈴 木 あやな	鮮于璜碑	萩 原 清 澄	人の心	松 野 莉 子	王羲之・楽毅論
鈴 木 碧 山	平穩無事	橋 傍 草 堂	半山春晚	松 原 房 子	木曾御岳
鈴 木 優 子	集王聖教序	橋 本 昊 暉	蘭亭序	松 村 健 太	中江藤樹の詩
大 保 春 麗	隴竹和煙淨	長谷川 あづさ	孔子廟堂碑	松 元 涼 風	何紹基書
高 山 紅 雪	延年益壽 處和	長谷川 育 子	古今和歌集	水 野 悦 子	詩神
楯 勝 苑	日月如馳帖	長谷川 和 音	花然山色裏	水 野 琴 葉	いまこそ私は美を摺む
田 中 滉 樹	山部赤人詩	服 部 敦 子	まつかぜ	水 野 遥 風	八公洞題畫
田 邊 華 芳	春晚山莊	林 菁 鶴	森 鷗外の詩	溝 口 千 翔	造像記
千々岩 清 心	真草千字文	林 美 佳	晋祠銘	宮 崎 紫 香	竹中郁の詩
帖 地 玉 虹	喪乱帖	林 律 子	河邊淑氣	宮 下 恕 光	潛心觀道妙
塚 本 清 翠	古餅	春 野 瑞 希	春の頌Ⅱ風景	宮 田 基 次	早發白帝城
津 田 奏 遥	早に臨潼を發す	坂 みゆき	浴泉	三 輪 桂 女	朱熹「偶成」
津 田 玲 月	臨 書譜	平 子 正 江	性猶杞柳	三 輪 セーザル光	萬壽無疆
都 築 萌々花	孫秋生造像記	広 井 雅 風	宋 歐陽修 詩	森 帆乃香	石川善助の詩
坪 井 重 夫	所寶惟賢	藤 井 淳 翠	風立ちぬ	森 下 青 溪	臨機應變

安 江 凜々子	臨顔氏家廟碑	示 崎 マ キ	小さい頃の弟	稲 垣 翔 太	光に塗れる
山 浦 洋 子	都の富士	創作ちりめん細工 亜希	つるし飾りと手まり	稲 垣 哲 也	犬山の春
山 岡 清 風	清明(唐杜牧)	高 野 由 則	幻想	今 泉 信 一	追跡
山 口 真 翠	碧山過雨	塚 本 孝 子	宵まつり	岩 井 勲	雪しまく朝
山 口 真 生	春の頌…Ⅱ風景	林 孝 子	ロマンチックロード	薄 元 周	見つめる
山 田 素 花	潘存臨鄭文公下碑	東 島 久美子	高原のやすらぎ	梅 村 陽 子	おおきいね
山 田 陽菜多	蘭亭序	菱 田 久仁雄	おんな	江 崎 光 男	勇猛果敢
行 武 真由美	創業垂統	美 頭 保	美美十柱戯	大 熊 俊 雄	家路
吉 川 春 泉	暁に湖上に至る	ひょうたんすみじろう	Tramonto di Venez	太 田 光 彦	桜花らんまん
吉 田 祥 山	萬物皆備於我矣 反身而誠樂莫大焉	藤 澤 康 子	花魁花散里	大 柳 庸 子	キラキラ星
吉 田 翠 香	長野県歌	藤 谷 拓 己	水族館	小笠原 貞 二	いぬわしの飛翔
吉 田 玉 枝	雨	藤 原 秀 子	愛しの花たち	岡 島 敬 司	熱湯で願かけ
吉 田 芳 水	書譜	松 下 次 男	花園に舞う	小 川 洋 子	わ・た・し
若 杉 春 佳	書譜	松 本 廣 行	富岳	小 椋 英 雄	力を合わせて
渡 邊 明日香	米芾集	miyane_san	たそがれにゃん	折 戸 秀 明	明智鉄道
渡 辺 樹	臨邛風図詩卷			垣 内 正 博	Let's go
渡 邊 磨 璃	化度寺碑	写 真		籠 橋 定 省	万華鏡の大賀ハス
渡 邊 ま る	蘭亭序	阿 部 照 美	初冬	加 島 治 夫	目覚めの三姉妹
		荒 川 一 正	茅葺屋根の家と木曾駒ヶ岳	片 田 芳 朗	迷路 どうする 烏
彫 塑 工 芸		安 藤 稔	優しさをのせて	加 藤 宏	秋日和
青 木 一 江	楽しい旅	家 田 大 輔	色の思い出	加 藤 学	釣れますか?
池 井 頼 雄	兼六園月下池畔草木寄添微軫燈籠立姿	井 澤 修 示	紅葉に包れた無際橋	加 藤 道 子	夏の思い出
伊 藤 克 己	新世界	石 川 宜 明	白亜の姫路城・大天守	川 口 剛	桜
大 嶽 佳代子	早春の丘	磯 村 弘	はいー ぽーず	桐 井 政 信	たまには強気でエイ!
大 嶽 充 廣	春らんまん	伊 藤 智 広	昇龍	熊 澤 晴 夫	アゲハと彼岸花
KIRIGAMI 武	花らんまん	稲 垣 一 弘	勢命力	熊 野 義 樹	久しぶり

小 島 光 春	ショウジョウトキ	中 村 和 夫	遠 花 火	水 口 誠	ちょっと休憩
後 藤 和 雄	よ!!日本一	中 村 春 喜	霊峰の夜明	水 谷 琴 美	凍てる
後 藤 謙 助	文月の華	名 倉 進	眺望の郷	水 野 一 郎	提灯釣り
小 林 克 子	狙う	丹 羽 守 男	ナンジャモンジャの花	南 典 男	錦繡
小 林 初 美	影樹の散桜	萩 野 優 那	おともだち	宮 内 憲 一	春うらら
小 林 昌 史	彼岸花有情	橋 本 章	大山の紅葉	村 田 正 美	中山道(和田峠)を歩く。
小 林 光 雄	桂林筏下り観光	長谷川 能 文	山茶花に雪	森 幹 雄	赤そば畑散策
近 藤 義 教	雪のケローナ通り	波多野 咲 枝	家族	山 内 直 樹	順路
斉 藤 光 代	異世界へようこそ	波多野 豊 子	若葉の頃	山 岸 武 久	サウス・オブ・ボーダー
酒 井 親	田縣神社 豊年祭り	波多野 肇	想い	山 口 勝	威嚇
坂 本 秀 明	空に浮かぶ逆さ富士	平 川 朋 実	鵜と鵜匠	山 崎 房 代	雨上がりの棚田
重 田 かつ子	船出	平 澤 孝 允	ヒマラヤの青いケシ	山 田 直 幸	王子のバラ
清 水 義 博	桜雨	平 田 唯 華	ついてる?	吉 田 勝 志	朝光の届く瞬間
下 平 邦 弘	登山日和	福 田 俊 博	春の装い	渡 辺 久 尚	秋のプロローグ
シ モ ン	梅雨晴	藤 井 孝 顕	梅雨の間に化粧直し		
杉 浦 英 幸	紅葉模様	藤 川 清 治	早春		
杉 村 靖 之	ワシ掴み	藤 田 守 男	夕景(地藏川)		
杉 山 道 生	バッタを喰うカマキリ	古 田 修	畝る滝		
鈴 木 宏 昭	絆(卒業旅行)	歩 登	孤高		
鈴 木 愛 未	オーストラリア研修で	堀 内 英 昭	あら、みてたのね		
鈴 村 羽 衣	書道パフォーマンス	堀 内 政 子	かれん		
谷 敬 博	黄昏のひとつき	前 田 一	満足、次は何を		
C H I B A	花の時 湖上の春	前 村 嘉 治	蛭舞う社		
程 山 専 歩	芒種の候	真 木 美知子	高瀬舟		
仲 井 由美子	spring ephemeral	松 井 恭 子	全員整列!		
中 川 歩 歌	マネージャーの日常	松 澤 敏 治	秋景日和		

無 鑑 査

(出品者のみ、五十音順)

日 本 画

飯 尾 博 明 うねり
佐 伯 茂 明 PEACE
武 内 喜代子 秋桜
山 下 勝 一 祖谷のかずら橋
山 田 憲 子 念珠

洋 画

会 津 清 子 動物園の山羊さん
老 本 貴美枝 カーボンニュートラル
大 橋 豊 Duo-調和
小笠原 広 行 Banjaku
加 藤 千恵子 夏
神 戸 健 志 春日井篠木アマルフィ
小 林 千恵子 窯垣
坂 本 泰 山 お祭りの日に
佐 藤 百合子 夢夜
鈴 木 三 枝 平和の祈り
田 邊 陸 男 フォリー水の塔からの眺め
橋 本 進 紅葉を訪ねて
浜 谷 真知子 ママ絵本読んで
早 川 瑛 子 ひと息
深 山 百合子 園原の秋
増 田 美和子 きいろの花たち
水 野 幸 子 めぐる想い

書

井 戸 茂 造 燃
伊 藤 翠 月 木簡

伊 藤 柳 香 宮澤賢治の詩
上 田 清 楓 張均詩
大 橋 幽 徑 街頭にて
岡 田 雪 魚 甲骨文
小 川 華 舟 涼聲度竹風如雨
笠 木 柏 舟 海風に吹かれて
梶 田 汐 里 迢空の詩
梶 田 汀 雨 春
梶 田 夕 貴 薄暮
加 藤 貴 咲 春
加 藤 紅 曄 北原白秋詩
亀 田 橋 河 書譜
川 合 碩 山 高適詩
河 地 一 舟 李嶠詩
河 地 柳 玉 高野切第三種
河 原 綵 子 春
北 谷 香 紗 灌頂歴名臨
櫛 田 瑤 月 曹全碑
工 藤 雅 恵 夕陽千樹鳥聲寂
國 定 景 風 太上隱者詩
小 島 徹 緑樹青草
小 林 溪 翠 伊都内親王願文
小 林 恵 風 マジックアワー
酒 井 耕 雲 張九齡詩
重 見 梢 玉 野上彰の詩より
柴 田 美 保 大田南畝詩
清 水 竹 水 玉泉帖
鈴 木 春 葉 タオルのつぶやき
砂 原 篁 舟 礼器碑陰

高 倉 佳 風	My Living Praise
谷 利 紫 鳳	水原秋櫻子の句
豊 田 玉 葉	李白詩
鳥 居 彩 雨	陳子昂詩
中 澤 抱 翠	天機妙
長 縄 桃 李	李白詩
永 見 沙 香	一枕鳥聲殘夢裏
西 山 美 翔	入若耶溪
仁 部 轡 琇	丸本明子詩
野 中 游 園	李白詩
野々川翠扇	早梅橋
羽 柴 苔 谷	風景
長谷川 由記子	富士山
原 三 篁	張瑞圖 杜甫詩
原 田 美 紀	雁塔聖教序
平 野 智 山	杜甫飲中八仙歌卷
福 留 文 蛤	自叙帖
藤 田 香 志	春潮帶雨
藤 縄 昌 江	有無
古 川 直 美	玉泉帖
堀 和 水	星河不動天如水
増 田 紅 葩	秋の感傷
松 田 玲 花	雁塔聖教序
松 原 楽 朋	猫
右 高 香 山	白鳥
山 田 清 翠	釣魚灣
山 本 康 二	還
横 井 吟 虹	新しい言葉
横 井 光 城	非楽戦

吉 岡 翠 谷 清適

彫 塑 工 芸

大 竹 恵 子	子どもの森
奥 村 日出夫	頬笑み
小 倉 せい子	自然への感謝
加 藤 知 子	ようこそ「楽園」に
川 口 瓊 子	花
長 瀬 徹	宝海大黒天像
村 田 紀 子	陀梨亜(ダリア)

写 真

石 井 啓 喬	星輝く山里
市 原 淳 宏	召しませ春を
伊 藤 護	札幌ホワイトイルミネーション
今 井 千津子	秋彩
牛 場 建 一	側にいて
神 戸 敏 文	おはよう
鈴 木 建 彦	歌うコマドリ
田 中 吟 胡	蒼い砂紋
永 宮 正 義	春爛漫
早 川 幸 夫	必死の形相
林 柁 樹	信仰と観光の狭間
藤 田 文 夫	幽玄の刻
松 永 昭 弘	はやい はやい!!
松 本 唯 明	秋 麗
山 田 徹	一気呵成
吉 野 徹	結界
吉 村 清 子	イナバウアー

委

嘱

(出品者のみ、五十音順)

日 本 画

鈴 木 敦 子	秋韻
瀧 日 勝 子	赤いばら
田 中 朝 江	開田高原
富 永 美千代	華
平 松 節 子	孔雀

洋 画

石 黒 郁 美	囁き
大 泉 雄 一	コンビナート
奥 村 進	白馬・春景
小 原 芳 子	廃線の隧道
加 藤 祝 章	ケータイ
加 藤 美代子	白崎海岸
黒 原 すみえ	とある街の片隅で
佐 藤 早和子	初夏の庭園
白 鳥 喜代司	郷土発展の礎
鈴 木 英 機	大垣城
西 島 正 人	祈りII
松 岡 弘 美	WATA
山 本 英 之	ピース

書

伊 藤 芳 華	原裕の句
今 井 芝 香	久女の句
岩 田 守 文	真草千字文
鵜 飼 冠 山	半山残月
宇 野 光 峰	那須高原
大 嶋 雲 亭	揚基詩
小 幡 豊 園	子夜呉歌

加 藤 城 涯	小舟浅沙に闇まり
加 藤 翠 柳	かさゝぎ
神 戸 春 谷	鬼鬼十三月 山本太郎の詩
小 嶋 恵 泉	桜の花
小 林 京 苑	西本願寺三十六人集 友則集
代 田 美 泉	施
鈴 木 美 月	雨情の詩
桃 井 祥 谷	俳句

彫 塑 工 芸

伊 藤 時 子	ガラス瓶とガラスの器
打 田 世 道	七宝花器
児 玉 真衣子	向日葵II
舘 内 圭 子	書聖
塚 本 将 慈	西方の人
西 口 昭 雄	桜と赤富士
林 泰 子	カサブランカ
松 本 芙三子	謡
八 木 宏 美	懐かしのメロディー
安 江 勝 夫	瑠璃観音

写 真

大 嶋 和 美	木枯らしの吹いた跡
坂 本 進	雪原散歩
外 勢 肇	激流を裂いて
中 西 眞 二	静寂
西 井 忠 義	仲良し
村 里 茂 延	豪雪
森 田 和 生	キャッチ
安 場 佳 展	水燃而火

市民美術展覧会審査会員

(順不同)

日本画

安達 英志郎	仮面に囲まれて
森脇 仁士	村かぶき一業火
浅野 忠	佳景
鈴木 淳子	生え
瀧下 尚久	虚空菩薩
加藤 洋一朗	家路
芝 康弘	律

洋画

奥村 浩康	御嶽の夕べ
小林 笑子	雨の花壇
小林 俊明	壁の中の風景
塚田 譲	ハッピーメロディ
岡部 寛治	古都マテラ
新井 直子	あじさいの花
兼 忠志	氷柱・STOP温暖化
水谷 武	ー
新美 哲也	はざま～よたれそつねならむ～

書

中村 立強	戯
藤田 金治	ー
長谷川 秀谷	明日
石黒 柏葉	まどみちおの詩
後藤 幽泉	行雲流水
木全 春葉	頼山陽詩
安達 柏亭	『老子』の一節
橋詰 桃邨	安部仲麿の歌(古今集)
日比野 桃花	七言二句
武内 峰敏	武内幽華の句
小川 大樸	ー

川本 赫汀	さくら貝の歌
原田 凍谷	天原
長谷川 清城	影
山川 昌泉	日々是道場
梶田 文宗	智恵
後藤 抱琴	俵万智「サラダ記念日」より
津田 松鶴	紅葉
鈴木 香萩	煌めく街
三島 濟美	響
伊藤 井翠	庭
川本 大幽	鈴蘭
落合 棲谷	然
河地 栖雲	寿如金石
小山 峯雲	關山月
永瀬 紅蘭	夏花の歌
松本 盈真	桃花暮雨烟中閣
小坂 克子	尊徳樂義・窮不失義
鈴木 凍山	秋櫻子の句

彫塑工芸

高橋 佐門	窯変扁壺
柴田 明	有線七宝抽象文花瓶
河村 佳則	街
伊藤 典子	SO宙RA-懐古
丹羽 萌	コンポジション

写真

伊藤 滋	疾走
安藤 宏幸	親子
奥村 克己	重さに耐えて
丹羽 省吾	惜春

審 査 講 評

日 本 画

第72回春日井市民美術展覧会 日本画部門は一般28名、無鑑査5名、委嘱5名の合計38名の応募と、審査会員7名を加えた出品がありました。

今年度は市制80周年にあたり、市長賞とともに市制80周年記念賞があります。それはとても価値のある大きな賞です。今回は、大作が多く見ごたえがあり、どの作品も作者の表現したい内容が、とてもよく伝わってくる作品でした。

市長賞 とてもインパクトがあり表現方法に魅力を感じる作品です。吊り橋のパースペクティブ（遠近感）を効果的に使った秀作です。

市制80周年記念賞 色彩がとても美しい作品です。完成度が非常に高くレベルの高い内容です。

財団理事長賞 メッセージ性が伝わる作品です。画面内に描かれた構成要素から今の世界情勢が感じ取られます。

教育委員会賞 迫力がありモチーフの形態感や材質感が丁寧に表現された作品です。スケールの大きさが伝わってきます。

市議会議長賞 全体の色調が統一された美しい作品です。花の描写と構成が素晴らしい内容です。

観光コンベンション協会会長賞 太古の歴史に思いをはせる作品です。黄土や岱赭の色彩がとても綺麗です。

委嘱特別賞 色彩が豊かでバランスの良い作品です。

奨励賞 とても可能性を感じさせる作品が多く今後に期待したいです。

今回も全体的にレベルは向上していると感じました。ぜひ一人でも多くの方が、創作の世界にチャレンジしてみてください。

＜日本画部門審査会員 浅野 忠＞

洋 画

今年の洋画部門は、一般94名、無鑑査17名、委嘱13名の応募作品と8名の審査会員を加えた132点の出品となりました。今回は昨年度と比べて、無鑑査の作品が5点減少し、一般作品からの特別賞が多く選ばれました。内容的にも油絵の大作に、しっかり時間をかけて書き上げた秀作が目につきました。又、イラスト風に筆ペンを使って描いた作品や、水彩画の上にパステルで描き足した作品等、新しい技法を使った作品も選ばれました。

市長賞の作品は、碎石場の鉄の機械類を重厚な感じでまとめた100号の大作で、迫力のある作品になりました。

市制80周年記念賞の杉の古木の力強さが、画面一杯に表現されており、水彩絵の具とパステルの味をうまくミックスした面白い作品に仕上がりました。

財団理事長賞の作品は、版画作品が選ばれました。細部までしっかり彫り刻んであり、刷り上げるのにもかなり時間をかけて制作されておられると推察され、毎年審査員の話題になります。単色の美しさが見事です。

教育委員会賞のイラスト風の作品は、今迄市民展には見られなかった若さあふれる作品です。カラフルな画面に筆ペンを使った新しい技法が評価されました。

市議会議長賞の作品は、開田高原から見た御嶽山の大作で、緑を微妙な変化で表現し、点在する民家を補色関係の赤でアクセントとした力作です。油絵の具を何度も塗り重ねた画面が、山の重厚感を出しています。

観光コンベンション協会会長賞の数本の木をモチーフにした作品は、単純な木の並びを、木の太さや枝の変化、根本の変化等工夫が見られ、色数は少なくとも遠近感がうまく表現されていてリズム感のある作品になりました。

もう一点の帰り道を描いた作品は、人物がうまく風景の中に透け込んでおり、落ち着いた画面となりました。風景の中に人物を描き込む場合は、絵の中に物語が生まれ、“鑑賞者に自由に想像してもらえ”というメリットがあります。そういう点でもこの作品は、成功していると感じました。

委嘱特別賞の作品は、人形と人物の組み合わせが面白く、構図、色彩ともバランス良く描かれた佳作となりました。

今年度は昨年に比べ、一般の部からの特別賞が増加し、新しい技法で描かれた作品も多くなり、若い世代の出品者が多くなった気がしました。奨励賞にも良い作品が沢山選ばれ、賞を決めるのに苦労しました。来年もこの傾向が続き、若い出品者が増える事を期待します。

＜洋画部門審査会員 岡部 寛治＞

書

「書のまち春日井」と呼ばれる理由の一つに、本市には漢字・かな・近代詩文・少字数書・篆刻など現代書道の全てのジャンルにおいて活動が行われ、身近に幅広い作品が

見られることにあつちいます。

今年度の出品作もさまざまな書流書派の力作が多く、多彩で充実した内容でした。しかも239点（委嘱、審査会員を除く）で前年比30点の増加をみたことは、コロナ禍で減少した出品数が回復し力強く活動が再開したことを思わせるものでした。

審査は14人の審査員が一流一派に偏することなく、公明正大を確認し厳正に行われました。優秀作の選考は厳しいものでしたが、大変スムーズに進行し、よい結果が得られたものと思っています。

市長賞には無鑑査の横井吟虹さんの現代文体の作品が選ばれました。「花の言葉」と大書し続く文を小さく書く配置が斬新で効果的な表現となっています。力強い用筆、そして余白の美しさが作品効果を高めています。

市制80周年記念賞の藤田香志さんは漢詩の一節を濃墨で一氣に書き上げ、力強く迫力があり練度もある重厚な作品で運筆も見事な秀作です。

財団理事長賞の古家野弥生さんの作品は、現代文の漢字とかなを調和させ、文字の大小、線の強弱・軽重、字形の変化などが魅力的な作品です。飛沫も効果的で迫力を感じます。

教育委員会賞の菱川武さんは篆刻の秀作です。篆書の整然とした字体で、緊張感のある線が魅力的です。同じく教育委員会賞の九野恭葩さんの作品は現代文作品ですが、かな古典にみられる上部だけを変化させ下部は揃える散らし書き風の構成が魅力です。余白・潤渇・文字の大小も工夫されています。

市議会議長賞の神沢紅峯さんは漢詩を草書で表現し、筆を自在に操って流動感があります。淡墨で抒情的に表現されて美しい作品になっています。同じく橋倉詠雪さんの少字数書は大字書きの魅力を遺憾なく発揮した作品です。淡墨の効果を活かし滲みと渇筆の美しさと大きな動きが魅力です。

観光コンベンション協会会長賞には5点の力作が選ばれました。伊藤八舟さん（雁塔聖教序）と加藤佳茜さん（礼器碑）は臨書作品です。伊藤恵光さんも古今和歌集の臨書です。ともに多くの字数が書かれていますが、用筆に一貫性があり原本の雰囲気やうまくとらえています。鹿倉清葉さんは伝統的な行草体の漢字作品です。文字の形や配置、行間の余白にも工夫がなされ上手く構成されています。林

泰伯さんの現代文体作品は文字の大小と墨量の変化が特徴の作品です。

委嘱特別賞の鵜飼冠山さんの作品は、七言二句の漢詩を半切二行にまとめた作品で伝統的な書式の作品ですが、濃墨、羊毛長鋒を駆使し、線の重厚さと潤渇の美しさが素晴らしく格調の高い作品です。

このほかの入賞・入選作品にも、書体・書風も様々な作品で古典臨書から創作まで幅広く、それぞれに良い作品が多くありました。書のまち春日井にふさわしい市民展であると思います。小野道風の書を臨書した作品もありましたが、生誕伝説を誇りにし、本市の書道文化が一層発展することを願っております。

＜書部門審査会員 安達 柏亭＞

彫塑工芸

今回の作品を拝見しまして第一に感じましたのは、皆さん本当に一生懸命、そして楽しんで制作されている事です。出品者同士が、互いに刺激しあい前進して行けると最高であると思っております。彫塑工芸部門は、彫刻、陶芸、人形、七宝、漆芸、切り絵、染織、竹工、金工、等々バラエティーに富んでおり、材料の選択や吟味、技術の錬磨など、どの分野も奥深いものですが無理をせず一步一步、独自性を持った物作りをして行きたいものです。

＜市長賞＞棚橋繁さんの「シャトル」は、宇宙船でしょうか作者独自の表現方法で、シャープで金属光沢の美しさと、観るものを圧倒する力強い作品に仕上がりました。硬く加工の難しいステンレス板での作品。金工技術の高さを感じると共に物作りへの猛烈な熱意を感じます。

＜市制80周年記念賞＞奥村日出夫さんの「頬笑み」は、ベットと一緒にとても幸せそうな少女、巧みにデフォルメされた姿が、柔らかく暖かい空気感を漂わせています。笑顔と髪表現が印象的です。

＜財団理事長賞＞野崎真千代さんの「トロピカル」は、オウムを中心に様々な生きものや植物が画面一杯に配され、色彩も豊富で鮮やかで楽しい七宝額に仕上がりました。画面構成や植線技術、施釉技術等丁寧で真摯な制作態度を感じます。

＜教育委員会賞＞伊藤寧恵さんの「想」は、強い赤色の衣装、大袈裟な身振りこそ有りますが、袖の中に入れた

腕、若い女性が思っている姿が印象的で美しい桐塑人形です。

＜市議会議長賞＞長瀬徹さんの「宝海大黒天像」は、顔の表情や衣の襷等細部まで神経の行き届いた木彫作品です。作者は昨年につづいての受賞であり日々精進されている証でしょう。

＜観光コンベンション協会会長賞＞加藤雅巳さんの「絵唐津茶盃」は、砂気が強く、鉄分を含んでいるため、素朴な渋さがあり、釉薬との対比や形状とのバランス、高台作り等程良く調和しており魅力ある茶碗となりました。

＜委嘱特別賞＞八木宏美さんの「懐かしのメロディー」は、古布を使用して絵画表現した技法の作品です。金管楽器の金属質や楽譜の紙質等それぞれの材質感が見事に表されており、画面構成も完成度が高い作品となっています。古布の蒐集から使う布の吟味等、永年の習練の賜と考えられます。

＜奨励賞＞岩田洋さんの「彼岸花」は四角形の花器に大小の彼岸花がリズミカルに配され淡茶の土とも良く調和しており清新な作品になりました。

＜奨励賞＞山田幸江さんの「世界平和に祈りをこめて」は、木を焦がして絵や模様を描くウッドバーニング技法の作品です。七福神の表現も変化に富んでおり、白地のバックと焦げた茶色が美しい画面となりました。

受賞には成らなかったものの感銘を受けた作品が何点もありました。お互いに次回を目指して頑張ってください。

＜彫塑工芸部門審査会員 柴田 明＞

写 真

市制80周年を記念する今回は、前年よりも若干の増加にとどまりました。これも長引いた新型コロナウイルスの影響を受けており、作品も目新しさに欠けていました。審査にあたっては、作者の狙いが明確に伝わり感動する作品を選びました。来年こそは写真活動に励まれ、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動を与える作品作りに努めてください。

市長賞 平田重模さんの「水のカーテン」は、流れ落ちる水が閉じてないカーテンのようになった裏側の親子を狙った作品です。流れ落ちる水量が多くなり親子がはっきりわかること、適切なシャッタースピードの選択が成功しています。何よりも暑い日にさわやかな清涼感を感じさせ

てくれる作品です。

市制80周年記念賞 岡重桂介さんの「無加工どすえ」は、くっきり見えるのがスマホで撮った舞妓さん自身を見せているアイデアがこの作品にあります。しかし、審査している段階で画題は何だろうかと思っていましたが、審査後確認したところ作者のウィットあるセンスに感心しました。

財団理事長賞 森本修さんの「ラインダンス」は、福井県南越前町の花ハス公園での作品です。この作品は、ハス田にひっそりと一列に並んだハスをダンサーがラインダンスをすると見立てたところが素晴らしい。上部を少しカットすると作品がよりよくなると思います。

教育委員会賞 神戸敏文さんの「おはよう」は、夏の風物詩である相撲の名古屋場所に向けて稽古を行う勝川の玉ノ井部屋での撮影です。隣にある保育園児も訪れ見学します。厳しい朝稽古を終えた力士と一列になり見学を終えた園児たちとの微笑ましい場面を捉えた作品です。

市議会議長賞 石黒良夫さんの「暮れゆく渚」は、渥美半島の伊良湖での作品です。雲間に落日する太陽の光芒が打ち寄せる波や浜に反映している中に一人の釣り人を配した自然美あふれる作品です。釣り人を光っている中に入れること、左と下部を少しカットすることでよりいい作品になると思います。

観光コンベンション協会会長賞 永田昭夫さんの「静寂」は、熱田神宮で行われる歩射神事とは違うと感じていましたが、小笠原流百々手式での作品だそうです。静寂の中射手の緊張の一瞬を切り取った作品で、ポジションがいいこと射し込む光を受けており素晴らしい作品となっています。

観光コンベンション協会会長賞 大石琉奈さんの「写真部のみんなで」は、高校生のフレッシュな作品です。この作品は、ウィンドウに映る仲間たちとの楽しさあふれる日常の高校生活を切り取った明るい写真です。今後は、社会を見て感ずることなどに目を向けることを期待しています。

観光コンベンション協会会長賞 久野榮次さんの「魅惑の初夏」は星空とホテルを捉えた作品です。デジタルカメラになり簡単とはいえども、場所・天候などの条件が難しい中、熱意と努力の結果の素晴らしい作品です。ホテルの合成を少し減らすことでより良くなります。

＜写真部門審査会員 伊藤 滋＞

応募点数

		日本画	洋画	書	彫塑工芸	写真	合計
応募搬入点数	①一般	28	94	178	27	119	446
	②無鑑査	5	17	61	7	17	107
	小計(①+②)	33	111	239	34	136	553
③委嘱		5	13	15	10	8	51
④審査会員参考作品		7	8	27	5	4	51
合計(①+②+③+④)		45	132	281	49	148	655

審査結果内訳

		日本画	洋画	書	彫塑工芸	写真	合計
特別賞 (①一般、②無鑑査より選考)	市長賞	1	1	1	1	1	5
	市制80周年記念賞	1	1	1	1	1	5
	財団理事長賞	1	1	1	1	1	5
	教育委員会賞	1	1	2	1	1	6
	市議会議長賞	1	1	2	1	1	6
	観光コンベンション協会会長賞	1	2	5	1	3	12
	合計	6	7	12	6	8	39
奨励賞(①一般より選考)		3	11	18	2	11	45
入選		21	77	149	21	101	369
選外		1	0	1	0	0	2
委嘱特別賞(③委嘱より選考)		1	1	1	1	0	4
展示数合計		44	132	280	49	148	653

市制80周年記念
第72回 春日井市民美術展覧会入賞者名簿
令和5年8月発行

編集：公益財団法人かすがい市民文化財団
発行：春日井市

〒486-0844 春日井市鳥居松町5-44
公益財団法人かすがい市民文化財団 電話(0568)85-6868

審査員解説（ギャラリートーク）日程表

市民展審査会員が特別賞作品等の作品解説を行います。ぜひお立ち寄りください。

部 門	会 場	8/19(土)	8/20(日)	8/26(土)
日本画	文化交流 アートリウム フォーラム 春日井 1F	▶10:30 浅 野 忠	▶10:00 鈴 木 淳 子	▶11:00 瀧 下 尚 久
洋 画		▶11:10 岡 部 寛 治	▶11:00 奥 村 浩 康	▶10:00 新 井 直 子
書		▶11:50 中 村 立 強	▶14:00 永 瀬 紅 蘭	▶15:00 梶 田 文 宗
写 真		▶12:30 奥 村 克 己	▶15:00 丹 羽 省 吾	▶14:00 安 藤 宏 幸

※ 書部門の審査会員を一部変更させていただいております。

※「彫塑工芸部門」の審査員解説はございません。

※ 都合により会場・時間・解説者などは変更する場合があります。

春日井市民美術展覧会 資格について

「春日井市民美術展覧会規約 細則に関する事項」より

【審査会員】 次に掲げる者のうちから役員会で決め、春日井市長が委嘱する

- 1 市内在住、在勤又は春日井市に貢献のある美術作家で現に活躍し、相当の地位にある者
- 2 市民展に功績のある者

【委 嘱 者】 1 本展覧会において市長賞を2回、若しくは市長賞を1回と財団理事長賞・教育委員会賞・市議会議長賞・観光コンベンション協会会長賞・記念賞のいずれかを2回受賞した者

- 2 市民展審査会員会で推薦した者

【無鑑査者】 1 本展覧会において市長賞を1回、若しくは財団理事長賞・教育委員会賞・市議会議長賞・観光コンベンション協会会長賞・記念賞のいずれかを2回受賞した者

- 2 市民展審査会員会で推薦した者

【資格喪失】 2年連続して出品のない場合、その資格を失うことがある。